

授業科目	成人看護学概論	単位数	1	時間数	30
担当講師 (実務経験)	非常勤講師（成人看護領域臨床実務経験有）				
科目目標	1. 人間のライフサイクルにおける成人期の特徴を理解する。 2. 成人期の健康問題と保健医療対策について理解する。 3. 成人看護の特徴と役割・機能について理解する。				
	回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師
	1	2	成人看護学について おとな観について	講義・GW	非常勤 講師
	2	2	おとな観について発表	GW	
	3	2	成人期各期の対象の特徴	講義	
	4	2	成人各期の対象の特徴をふまえて事例検討①	GW	
	5	2	成人各期の対象の特徴をふまえて事例検討② グループ発表	GW	
	6	2	成人を取り巻く環境と生活の状況 (統計的視点)	講義	
	7	2	生活と健康を守りはぐくむ保健システム①	講義	
	8	2	生活と健康を守りはぐくむ保健システム② 生活者としての成人の理解について	講義・GW	
	9	2	成人看護の役割・機能① 成人への看護アプローチの基本	講義	
	10	2	成人看護の役割・機能② 健康をおびやかす要因と看護	講義	
	11	2	成人看護の役割・機能③ 中範囲理論、健康レベル	講義	
	12	2	成人看護の役割・機能④ 成人看護に有用な概念	講義	
	13	2	成人の健康レベルに対応した看護① ヘルスプロモーションと看護	講義	
	14	2	健康レベルを踏まえた看護② 人生の最期のときを支える看護	講義	
	15	2	まとめ 終講試験	講義・試験	
評価方法	筆記試験 100 点				
評価基準	60 点以上で合格				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔1〕成人看護学総論 医学書院				

授業科目		成人看護方法Ⅰ		単位数	1	時間数	30
担当講師		看護師（がん看護専門看護師） 看護師（乳がん看護認定看護師） 看護師（皮膚・排泄ケア認定看護師） 看護師（脳卒中リハビリテーション看護認定看護師）					
科目目標		1. 生活行動に障がいがある人の生活とリハビリテーションを支援する看護について学ぶ。					
	回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師		
中 範 囲 理 論	回復期看護に必要な	1	2	障がいの受容過程	講義	が ん 看 護 専 門 看 護 師	
		2	2	不安、予期悲嘆について	講義		
		3	2	ボディイメージについて	講義		
		4	2	自己概念、自尊感情について	講義		
乳 房 喪 失	乳 癌	5	2	乳がん患者の特徴と看護の役割 治療選択時のケア（意思決定支援）	講義	乳 が ん 看 護 認 定 看 護 師	
		6	2	ボディイメージの変化に対する看護	講義		
		7	2	社会復帰支援と自己検診	講義		
人 工 肛 門 造 設	直 腸 癌	8	2	直腸がん患者の特徴と看護の役割	講義	皮 膚 排 泄 ケ ア 認 定 看 護 師	
		9	2	術後合併症の観察と看護 装具具の選択・特徴	講義		
		10	2	社会復帰ケア（セルフケア指導）	講義・演習		
脳 梗 塞 片 麻 痺		11	2	脳梗塞の患者の特徴と看護の役割	講義	脳 卒 中 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 看 護 認 定 看 護 師	
		12	2	合併症の観察と二次的障害の予防	講義		
		13	2	障害受容過程と生活関連動作の再獲得	講義		
		14	2	社会復帰のための連携と社会資源の活用	講義		
		15	2	終講試験	試験		
評価方法		筆記試験 100 点（状況的危機 30 点、乳房喪失 20 点、人工肛門造設 20 点、脳梗塞 30 点）					
評価基準		60 点以上で合格					
テキスト		系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔1〕成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔5〕消化器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔7〕脳・神経 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔9〕女性生殖器 医学書院 黒田裕子監修：看護診断のためのよくわかる中範囲理論 学研					

授業科目		成人看護方法Ⅱ		単位数	1	時間数	30
担当講師 (実務経験)		看護師（糖尿病看護認定看護師） 看護師（透析室勤務看護師） 看護師（慢性疾患専門看護師） 看護師（当該領域での臨床実務経験有）					
科目目標		1. 成人期の生涯コントロールが必要な対象への看護の方法を学ぶ。					
	回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師		
慢性期 看護	1	2	慢性病患者の理解	講義	慢性疾患専門看護師		
	2	2	慢性病との共存を支える看護	講義			
糖尿病患者の看護	3	2	糖尿病患者の特徴 （疾病受容、行動変容プロセス）	講義	糖尿病認定看護師		
	4	2	糖尿病治療と看護について	講義			
	5	2	糖尿病治療に対する教育的アプローチについて	講義			
	6	2	運動療法について	講義			
	7	2	血糖測定（実技演習）	演習			
	8	2	糖尿病看護（事例から問題とケアを検討）	GW			
腎不全患者	9	2	慢性腎不全の患者の特徴	講義	透析室勤務看護師		
	10	2	血液透析・腹膜透析の患者の看護	講義			
	11	2	透析患者の長期的合併症と看護	GW			
心不全患者	12	2	慢性心不全患者の看護	講義	看護師		
	13	2	心電図モニター、12誘導演習	演習			
	14	2	自己管理に向けた看護	講義			
	15	2	試験	試験			
評価方法		筆記試験 100 点（慢性看護：15 点 糖尿病 45 点、腎不全 20 点、心不全 20 点）					
評価基準		60 点以上で合格					
テキスト		系統別看護学講座 専門分野 成人看護学〔6〕 内分泌・代謝 医学書院 系統別看護学講座 専門分野 成人看護学〔8〕 腎・泌尿器 医学書院 系統別看護学講座 専門分野 成人看護学〔3〕 循環器 医学書院					

授業科目		成人看護方法Ⅲ		単位数	1	時間数	20
担当講師 (実務経験)		看護師（集中ケア認定看護師） 看護師（ICU 師長補佐） 看護師（緩和ケア認定看護師） 看護師（がん看護専門看護師）					
科目目標		1. 成人期の生命危機状態にある対象とその家族について学ぶ。 2. 救命、集中治療時の生命を維持するための看護について学ぶ。 3. がん患者とその家族の特徴と看護の方法について学ぶ。					
	回数	時間	授業内容		授業方法	担当講師	
救急看護 クリティカルケア	1	2	救急看護とクリティカルケアの特性 患者と家族の特徴		講義	集中ケア 認定看護師	
	2	2	生命の危機状態にある患者の看護① 意識障害 呼吸障害 ショック・循環障害		講義		
	3	2	生命の危機状態にある患者の看護② 体温異常 外傷 熱傷 中毒		講義		
	4	2	心肺停止状態への対応① 一次救命処置 二次救命処置		講義	看護師 (ICU 師 長補佐)	
	5	2	心肺停止状態への対応② 一次救命処置 自動体外式除細動器		演習		
がん看護	6	2	がん医療と臨床経過、患者とその家族の特徴		講義	がん看護 専門看護師	
	7	2	がん治療に対する看護 薬物療法 放射線療法		講義		
	8	2	がんによる身体症状と看護① 疼痛 倦怠感 消化器症状 呼吸困難		講義	緩和ケア 認定看護師	
	9	2	がんによる身体症状と看護② 浮腫 泌尿器症状 がんによる精神症状と看護 不安 抑うつ 不眠		講義		
	10	2	試験		試験		
評価方法		筆記試験 100 点（救急看護・クリティカルケア 50 点 がん看護 50 点）					
評価基準		60 点以上で合格					
テキスト		系統別看護学講座 別館 救急看護 医学書院 系統別看護学講座 別館 クリティカルケア看護 医学書院 系統別看護学講座 別巻 がん看護 医学書院					

授業科目		成人看護方法Ⅳ		単位数	1	時間数	30
担当講師 (実務経験)		看護師（手術看護認定看護師） 看護師（消化器外科病棟臨床実務経験有） 看護師（集中ケア認定看護師） 看護師（脳外科病棟看護師長補佐） 専任教員					
科目目標		1．周手術期の患者の身体機能を理解し、手術前と術後の身体的変化に伴い生じやすい合併症の予防に必要な看護の方法を学ぶ。 2．手術療法を受ける対象とその家族への看護の方法を学ぶ。					
	回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師		
周手術期の看護	1	2	手術を受ける患者の理解、手術前の看護	講義	手術看護認定看護師		
	2	2	手術中の看護	講義			
	3	2	膀胱内留置カテーテルの挿入と管理	演習	専任教員		
	4	2	手術後の看護	講義	手術室看護認定看護師		
開腹術を受ける患者の看護	5	2	胃がんで胃切除術を受ける患者の特徴・術前の看護	講義	看護師		
	6	2	胃切除術後の看護	講義			
	7	2	胃切除後の食事支援、退院指導	講義			
心臓手術を受ける患者の看護	8	2	心筋梗塞で心臓手術を受ける患者の特徴	講義	集中ケア認定看護師		
	9	2	心臓カテーテル術の看護	講義			
	10	2	術後の看護	講義			
	11	2	日常生活動作拡大に向けた看護	講義・演習			
開頭術を受ける患者の看護	12	2	脳腫瘍で開頭術を受ける患者の特徴	講義	脳外科病棟看護師長補佐		
	13	2	脳神経症状の観察と術前の看護	講義			
	14	2	開頭術後の看護	講義			
	15	2	試験	試験			
評価方法		筆記試験 100 点（周手術期 25 点・開腹術 25 点・心臓手術 25 点・開頭術 25 点）					
評価基準		60 点以上で合格					
テキスト		系統別看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統別看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院					

授業科目		老年看護学概論		単位数	1	時間数	30
担当講師 (実務経験)		非常勤講師（老年看護領域臨床実務経験有） 専任教員（老年看護領域臨床実務経験有）					
科目目標		1．高齢者の特徴である身体的、精神的老化現象や発達課題を述べることができる。 2．高齢者を取り巻く社会と保健福祉の動向について述べることができる。 3．高齢者の健康の目標、生きがい、ＱＯＬについて述べることができる。 4．日本の家族形態の変化をふまえ、介護家族の生活について述べることができる。 5．高齢者の人権、高齢者虐待の問題について述べることができる。 6．高齢者を理解し、生活を支援する老年看護の役割について述べることができる。					
	回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師		
	1	2	老いるということ 老年看護の理念	講義	非常勤講師		
	2	2	老年期の発達と成熟	講義			
	3	2	高齢者にとっての健康とＱＯＬ	講義			
	4	2	加齢に伴う身体的変化と心理・精神的機能の変化	講義			
	5	2	加齢変化に伴う日常生活への影響	講義			
	6	4	高齢者体験演習	演習	専任教員		
	7	2	高齢者と家族	講義	非常勤講師		
	8	2	高齢者と社会	講義			
	9	2	高齢者保健福祉の動向と各施設の役割	講義			
	10	2	高齢者の権利擁護と倫理 ノーマライゼーション 高齢者差別 高齢者虐待 安全確保と身体拘束 高齢者の権利擁護（アドボカシー）	講義			
	11	2	高齢者の権利擁護と倫理 高齢者の人権と倫理問題について	講義			
	12	2	高齢者のエンドオブライフ よりよく生きるためのケア	講義			
	13	2	意思決定と自律支援とエンパワメント 多様性への対応	講義			
	14	1	まとめ	講義			
	15	1	終講試験	講義			
評価方法		非常勤講師 90 点 専任教員 10 点					
評価基準		60 点以上で合格					
テキスト		系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院					

授業科目	老年看護方法Ⅰ		単位数	1	時間数	30
担当講師 (実務経験)	専任教員（老年看護領域臨床実務経験有） 非常勤講師（看護師） 看護師（NST〔栄養サポートチーム〕専門療法士）					
科目目標	1. 老年期にある対象者を生活機能の観点からアセスメントする意義を述べるができる。 2. 老年期特有の健康障害がある対象者へどのような治療が行われるか、またそのときの援助方法について述べるができる。 3. あらゆる健康段階にある老年期の対象者とその家族への看護について述べるができる。					
	回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師	
	1	2	高齢者のヘルスアセスメント 1.高齢者のヘルスアセスメント 2.高齢者のフィジカルアセスメント 3.高齢者総合的機能評価（CGA） 4.高齢者のヘルスケアシステム	講義	専任教員	
	2	2	高齢者の日常生活を支える基本的活動 1.日常生活活動のアセスメント 2.高齢者の転倒 3.廃用シンドローム	講義		
	3	2	高齢者の日常生活援助：食事 高齢者の食事の特徴と看護ケア	講義		
	4	2	高齢者の日常生活援助：排泄 高齢者の排泄の特徴と看護ケア 「オムツ交換の方法」	講義 演習		
	5	2	高齢者の日常生活援助：清潔 生活リズム 高齢者の衣生活、清潔の特徴と看護ケア 高齢者の生活リズムの特徴と看護ケア	講義		
	6	2	高齢者の日常生活援助：コミュニケーション 高齢者のコミュニケーションの特徴と看護ケア	講義		
	7	2	高齢者の日常生活援助 援助計画の発表 「高齢者の食事介助」 「高齢者のトイレ介助」 「高齢者の入浴介助」	講義		
	8	2	高齢者に多い症状と看護 発熱、痛み、痒み、脱水、嘔吐、浮腫、倦怠感のアセスメントメカニズムと看護のポイント	講義	非常勤講師	
	9	2	排尿・排便障害がある高齢者への看護 排便・排尿障害がある高齢者の特徴とアセスメント	講義		
	10	2	提供する看護において留意・配慮すること			
	11	2	低栄養状態にある高齢者への看護 栄養状態を老年期の特徴をふまえてアセスメント 対象にとって適切な栄養管理と看護	講義	看護師 （NST 専門療法士）	

	12	3	検査を受ける高齢者と家族への看護 高齢者が受けることの多い検査と検査結果のアセスメント 円滑な検査実施への援助	講義	非常勤講師
			薬物療法を受ける高齢者と家族への看護 加齢に伴う薬物動態、薬物による有害反応と特徴 高齢者の薬物管理、与薬、内服管理、介助方法 薬に対する看護職の責任	講義	
	13・14	4	手術療法を受ける高齢者と家族の看護 高齢者の身体的特徴をふまえた麻酔による生体反応 術前のアセスメント:栄養状態、既往歴、ADL、家族のサポート体制 高齢者の特徴をふまえた術前・術後の観察と看護 高齢者の特徴をふまえた術後合併症とその予防	講義	非常勤講師
	15	1	終講試験		
評価方法		非常勤講師 筆記試験 50 点（非常勤講師 40 点＋看護師 10 点） 専任教員 50 点（筆記試験 35 点 レポート課題 15 点）			
評価基準		60 点以上で合格			
テキスト		系統別看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 系統別看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院 山田律子他 生活機能からみた老年看護過程＋病態・生活機能関連図 医学書院			

授業科目		老年看護方法Ⅱ		単位数	1	時間数	30
担当講師 (実務経験)		専任教員（老年看護領域臨床実務経験有） 看護師（認知症看護認定看護師） 看護師（慢性疾患看護専門看護師） 看護師（特定行為看護師） 看護師（整形外科、救急科病棟実務） 看護師（皮膚排泄ケア認定看護師） 看護師（緩和ケア認定看護師）					
科目目標		1. 老年期の疾患・疾病の経過の特徴を理解し、老年期特有の看護問題と対応の方法を学ぶ。 2. 老年期にある対象のエンドオブライフケアについて考え、「苦痛の緩和とその人らしく最大限にQOLを保ちつつ最期を迎えるための看護とは」について学ぶ。					
	回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師		
認知機能	1	2	1. 認知機能に障害のある老年期の患者の看護 1) 認知症看護の原則 2) 認知症がある老年期の患者とのコミュニケーション、意思決定支援 3) 認知症がある老年期の患者の環境調整	講義	認知症看護 認定看護師		
	2	2					
	3	2					
	4	2	2. せん妄を発症した老年期の患者の看護 1) せん妄を発症した老年期の患者の看護 2) せん妄と認知症の鑑別	講義	認知症看護 認定看護師		
呼吸	5	2	3. 呼吸機能に問題のある老年期の患者の看護 1) 老年期に生じやすい呼吸機能障害 2) 肺炎に罹患した老年期の患者の看護	講義	専門看護師 特定行為看護師		
	6	2					
運動器	7	2	4. 運動器の機能に障害のある老年期の患者の看護 1) 大腿骨頸部骨折患者の看護 2) 術後の脱臼予防・禁忌肢位への援助	講義 演習	整形外科、 救急科病棟 看護師		
	8	2					
褥瘡	9	2	5. 老年期にある対象への褥瘡の予防と看護 1) 褥瘡発症のリスクと予防対策 2) 褥瘡がある老年期の患者の看護 3) 褥瘡処置の方法（創洗浄）	講義 演習	皮膚排泄 ケア認定 看護師		
	10	2					
	11	1					
エンドオブライフケア	12	2	6. 老年期にある対象のエンドオブライフケア 1) エンドオブライフケアの概念 2) 全人的苦痛とは 3) 老年期の対象の尊厳を守るための支援 4) 末期段階に求められる援助 5) チーム医療の重要性と看護師の役割 6) グリーフケア	講義	緩和ケア 認定看護師		
	13	2					
	14	2					
医療施設	15	2	7. 医療施設における老年期患者の看護 1) 介護老人福祉施設 2) 介護老人保健施設	講義	専任教員		

	16	1	終講試験（45 分）		
評価方法	筆記試験 100 点（認知機能 30 点、呼吸機能 14 点、運動機能 14 点、褥瘡 14 点、エンドオブライフケア 21 点、医療施設 7 点）				
評価基準	60 点以上で合格				
事前課題	◆「認知症・せん妄」の講義においての事前課題 「精神の機能と疾病論」で定義・機序について学習しているので、その内容を復習しておくこと（その時の講義資料を授業には持参すること）。 ◆「エンドオブライフケア」の講義においての事前課題 成人看護学概論で学んだことを振り返り、自分の考えを持って講義に臨むこと（レポートを課すことも考慮） ・人生の最期とは／人間にとっての死とは／全人的苦痛とは				
テキスト	【主要テキスト】 ・系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 【サブテキスト】※各講義の内容をみて、該当する分野のテキストを用意すること ・系統看護学講座 専門分野 成人看護学 7 脳・神経 ・系統看護学講座 専門分野 成人看護学 2 呼吸 ・系統看護学講座 専門分野 成人看護学 10 運動器 ・系統看護学講座 専門分野 成人看護学 12 皮膚				

授業科目		看護過程演習	単位数	2	時間数	30
担当講師 (実務経験)		本校専任教員（臨床実務経験有）				
科目目標		4. 成人期から老年期へ、また急性期から慢性期、終末期へと経過する患者の事例を通して、発達段階および健康状態に合わせた看護過程が展開できる。				
回数	時間	授業内容	授業方法		担当講師	
1	2	疾患理解と共同問題①	講義 演習		専任教員	
2	2	疾患理解と共同問題②	演習			
3	2	急性期の看護 ・データベースアセスメント	講義 演習			
4	2	・関連図と問題の明確化	演習			
5	2	・看護計画の立案	演習			
6	2	・看護の実施と評価	演習			
7	2	慢性期の看護 ・データベースアセスメント	講義 演習			
8	2	・関連図と問題の明確化	演習			
9	2	・看護計画の立案	演習			
10	2	・看護の実施と評価	演習			
11	2	終末期の看護 ・データベースアセスメント	講義 演習			
12	2	・関連図と問題の明確化	演習			
13	2	・看護計画の立案	演習			
14	2	・看護の実施と評価	演習			
15	2	まとめ	講義 演習			
評価方法		100 点満点（提出物による課題点）				
評価基準		60 点以上で合格				
テキスト		看護がみえる vol.4 看護過程の展開 メディックメディア 系統看護学講座 成人看護学〔1〕成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 老年看護学 医学書院 看護診断のためのよくわかる中範囲理論 学研				